

小松 正真 議員

遠野ふるさと商社・公社について

市長 公社と商社が一緒になる 今が新たなスタート

市長 令和4年度計画値収支均衡、実績値1,400万円赤字。この2施設には注力されていなかった。

市長 私であれば分社という手法は取らなかつた。分社は資金繰りのためにやったとしか思えない。分社という手法は、抜本的な改革にはつながらなかった。

市長 この3年間で、改革のために使われた予算の検証は、

市長 風の丘の改修等もあり評価することが難しい。改修を行えば売上は上がるので、何の影響があつて売上が上がったかは判断ができません。ただ、経営体

市長 風光園・ふるさと村の計画に対して実績は。

市長 令和4年度計画値1,900万円黒字、実績値は3,800万円。

市長 風の丘・伝承園の分社当初計画に対しての実績は。

市長 令和4年度計画値1,900万円黒字、実績値は3,800万円。

市長 水光園・ふるさと村の計画に対して実績は。

市長 令和4年度計画値収支均衡、実績値1,400万円赤字。この2施設には注力されていなかった。

市長 私であれば分社という手法は取らなかつた。分社は資金繰りのためにやったとしか思えない。分社という手法は、抜本的な改革にはつながらなかった。

市長 この3年間で、改革のために使われた予算の検証は、

市長 風の丘の改修等もあり評価することが難しい。改修を行えば売上は上がるので、何の影響があつて売上が上がったかは判断ができません。ただ、経営体

市長 制等十分かと言われるば十分ではない。

市長 登記簿に記載されているふるさと商社の設置目的が全く達成されていない。市民の声を聞き、今後の改革に活かすべきと考えるが市長の見解は。

市長 市民の意見を聞くというのは、これに限らず当然のことだと思ふ。私もお客様への配慮等が気が付いたところは指摘している。市内の様々な団体と横の連携を密にしている。ふるさと公社をふるさと商社が吸収する今が、新しいスタートだと考えている。

市長 本場の意味でふるさと商社が自立しなくてはいけない時である。自立に向けた市長の考えは。

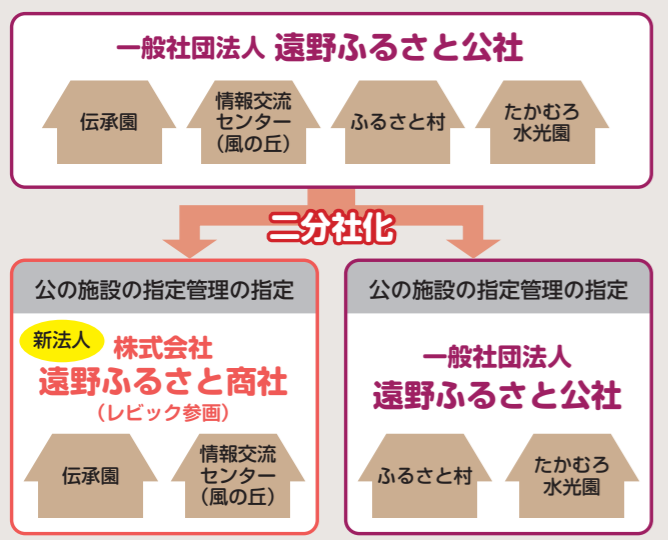
市長 もっともつと各施設のレベルを上げていくには、市民の憩いの場として、観光の目的として有意義にしていくためには、地域の皆さまの理解と協力を今まで以上にいただかないとできないと思つている。そして、

解説 ふるさと公社これまでの経緯

令和2年6月定例会において、遠野ふるさと公社を二分社化する等の議案が可決。

厳しい経営状況が続く公社の抜本的な経営改革の取り組みについて議論を交わした。

商社には、全国各地で地域経済の再建、事業再生の成果をあげている地域経済活性化支援機構（レビック）が参画し、収益性の高い2施設の経営改革を先行して進め、3年後に公益性の高い公社の2施設を事業継承することとなった。



設計が悪いのか？導線が悪い風の丘

ある時点では、しっかりと投資をしていかなければいけないと考えている。



釜石線の存廃

市長 JR 東日本盛岡支社は「廃止しない」と明言

市長 情報が少ない。遠野駅舎に関する状況は。

市長 既存駅舎の活用を含む3案がJR側から改めて示されたところである。

市長 今後は、適宜、市民の皆さまと情報共有しながら議論を重ねていきたい。

市長 釜石線の現状は。年間約25億円の赤字。

市長 新型コロナウイルス感染症の影響も相まって厳しい経営が続いている。

市長 「利用しないが駅舎を残せ。利用しないが鉄道維持を求む」では話が進まない。

市長 採算や収益だけを基準に便数や路線を削減したことによって、人口減少、地域経済の衰退、過疎化の悪循環を招いた地方もある。

市長 存続に向け、どのような方針で最適な戦略を導き出し、望ましい解決策を見出そうと考えるか。

市長 このまま利用の低迷が続いた場合には、将来的に廃止の選



鉄道事業者任せだけでは、もはや立ち行きません。私たちが、もっと釜石線を利用しましょう。

扱肢が示される可能性も十分に考えられる。路線維持を求めるには、市民の日常における利用促進を図っていくことも必要。引き続き県や沿線自治体と連携しながら、これまでの検討内容をより具体的なものにしていく。隣接する花巻市、住

田町、釜石市を結ぶ広域的な路線であり、市民にとって重要な移動手段。存続に向けた対策を講じる。

市長 一般財源の支出も辞さない考えか。

市長 大事なこと。具体的な取り組みを見出したい。

戦没者慰霊碑・忠魂碑の維持管理

市長 市内27基の状況は。

市長 経年劣化はあるが、いずれも粗末にされていないという状況はない。

市長 多様な歴史観や宗教観があるが、継承について踏み込んだ議論が必要ではないか。行政ができることは少なくないはず。考えを伺う。

市長 日本人なら知らないふりはできない。方向性をしっかりと決めるべきである。お金はその次。

市長 それぞれの遺族会の意思を尊重することが大切。その上で、担当課を交えながら市遺族連合会で意見を取りまとめ、今後の方針を決めていただきたい。

市長 スタートを切るべき時期であるということをはっきりと申し上げておきたい。

解説 釜石線の利用状況 (令和3年度末時点)

区間名	輸送密度 (一日当たりの平均利用者数)
花巻～遠野	644人
遠野～釜石	339人

JR 東日本が公表している路線別収支データより

1980年国鉄再建法により、輸送密度4,000人未満はバス輸送が効率的であるとし、対象路線は廃止、または他の輸送手段に転換された。

当時、釜石線は「平均乗車キロが30キロメートルを超え、輸送密度が1,000人/日以上」に該当することから、廃止から除外された。

